



ごあいさつ

福島県小学校長会

会長 石幡良子

このたび福島県小学校長会会長を仰せつかりました石幡良子です。どうぞよろしくお願
いいたします。

福島県小学校長会は、大正15年4月の結成以来、長きにわたり本県小学校教育の充実・発
展のために、真摯に研究と実践を重ね、多大な成果を上げてきました。99年の歴史と伝統、
そして、諸先輩方の小学校教育の充実に対する熱い思いを引継ぎ、会員皆様のご理解とご
協力の下、会長として全力を尽くして参ります。

さて、本校長会会則第3条（目的）には、「本会は、会員の職能の向上と小学校教育の
充実刷新を図り、本県教育の進展に寄与することを目的とする」とあります。目的達成の
ためには、県内の小学校長が自ら研鑽を積むために集い、互いに切磋琢磨し合い、力を合
わせていくことが必要です。それが、各校の学校経営の充実と本県小学校教育の振興を促
し、ひいては子ども一人一人の望ましい成長の実現を果たすことにつながっていくと考え
ます。

特に、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故に関しては、「学校は復興
の最大の拠点」の合言葉の下、校長先生方がリーダーシップを発揮して、教育環境・機能
の回復に取り組んでこられました。震災から13年が経ち、令和3年4月から第二期復興・
創生期間がスタートしていますが、双葉町は、未だに避難先での教育活動を余儀なくされ
ています。さらには、小学生は全員震災後に生まれた子どもたちとなっており、震災の記
憶と教訓の伝承が課題ともなっています。引き続き校長会といたしましては、被災地校の
支援及び風評被害、風化の防止に努めてまいります。

社会の急激な変化に直面する今、「変革」の波は学校現場にも押し寄せ、対応を求めら
れています。学び方の変革、いじめや不登校など生徒指導上の問題、急速に進むICT化、
大量退職・採用に伴う教職員の構成問題、教職員の人材育成・確保、管理職を目指す人材
の発掘、働き方改革の更なる推進、定年延長など、教育課題は山積しています。

しかし、このような時だからこそ、教育行政と学校とが一体となって、学校経営を推し
進めていくことが肝要です。そして、校長会の組織的な取組を重視し、全会員が軌を一に
して、子どもたちのために頑張っていくことが校長会の役割を果たすことになっていきま
す。

次年度は、福島県小学校長会が100周年を迎えます。100周年記念事業として実施する
記念式典などの準備も進めていかなければなりません。さらには、令和9年度開催予定の
「全連小福島大会」に向けての計画・準備も行っていかなければなりません。改めて会員
皆様一人一人のご理解とご協力をお願い申し上げます。